

2014年6月3日/アカデミック・リンク・センター I 棟1階コンテンツスタジオ

2014年度アカデミック・リンク・セミナー(第1回)

「学修支援活動、コンテンツ提供の新機軸」

参加者アンケート集計結果

当日参加者数：24名

アンケート提出数：23件

千葉大学アカデミック・リンク・センターでは、「生涯学び続ける基礎的な能力」「知識活用能力」を持つ『考える学生』を育成することを目的とし、デジタル時代における大学の学習教育環境の改革に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・動画配信の利用分析は、教育現場ならではの分析で大変興味深い内容でした。
- ・貴学で取り組んでいる学習支援の内容と目指すカタチ。
- ・学習支援として、学生が学生を創る は始めて知りました。
- ・CLRの活動について、初めて知り、関心を持ちました。
- ・大学院生による学習支援は、文系と理系でかなりニーズが異なるのだらうということがわかりました。
- ・理系科目の学習支援は需要が高く、教える側のスキルアップが見られること。
- ・CLRの概要と目指す方向性。
- ・学習支援の現状と、資源活用の展望。
- ・ALSAによる学習支援が機能していること。
- ・千葉大学での最近の取り組みがよくわかりました。
- ・サービスの集中と分配について、サービスをする上で気になっていたことが少し見えてきたので、参考になりました。
- ・昨年も活動報告をセミナーで伺いましたので、各プロジェクトの進み具合、課題がわかり興味深かったです。
- ・CLRの活動について。
- ・CLRの活動課題。
- ・アカデミック・リンク・センターの取り組み内容が理解できました。
- ・アカデミック・リンクそのものの全体像をつかむことができたことが良かったです。(ウワサではよく聞いていましたが、直接説明を聞き、見ることができた意義)
- ・授業動画そのものよりも、サポート動画の方がアクセス数が高かったこと。
- ・千葉大学様の人的支援、コンテンツ支援についてよくわかりました。図書館の枠を超えた活動に感銘を受けました。
- ・CLRに関する話とコンテンツ電子化に興味があった。詳しい話が聞けて良かった。
- ・CLRの意義がよくわかった。
- ・CLRの試みが何を狙っているのかがよくわかった。
- ・ALSA-LSは塾講師や家庭教師のようなものなのだなと思った。
- ・著作権についてのコンソーシアムが設立されたことを初めて知りました。
- ・大学院生による学習支援のお話に興味があり参加いたしました。振り返り会での詳しい内容を教えていただき大変参考になりました。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・著作物を、より広く有効に学習資源として利用する時の具体的な利用許諾範囲のボーダーライン。
- ・学習相談で個人情報には聞かないとのことでしたが、所属も学年も聞かないのでしょうか？（分析や学内のフィードバック等は？）
- ・児童文学事典の立ち上げまで、どれ位の期間を要したか。その間の、各機関との打ち合わせ回数、頻度、体制などは？
- ・児童文学事典のように絶版資料が使いやすくなるとありがたいので、電子化プロセスをさらに詳しくお聞きしたいと思います。（誰がどのプロセスを担当したかなど。）
- ・文系の学習支援の伸びがないことについて、また、その改善策について、もう少しつつこんだお話が聞けたらよかったです。
- ・「児童文学事典」で公開不可とする著者の方の理由
- ・「児童文学事典」印刷不可にしてあるとのことですが、スクリーンショットをとって印刷することも不可能になってしまっているのでしょうか？
- ・コンソーシアムについて、大学図書館職員としてどう関われるのかわからなかった。しかも、先生“自産”の著作物は気になるところです。
- ・CLRの参画など。
- ・CLRは全大学に参加の呼びかけはされているのでしょうか？
- ・CLRをさらに大きな動きにしていくために、何が必要でしょうか？
- ・学生アシスタントの質の維持、向上、モチベーションの維持などについての工夫があれば、知りたいと思いました。個人情報について配慮・指導はどうされているのか。
- ・ローレンツ曲線
- ・わからなかったことは特にございません。
- ・ALSAの募集や勤務条件はどのようになっているのか
- ・児童文学事典は文系ならだれでも使うわけではないと思うが、ユーザーはどのくらいいるのか。
- ・大学院生による学習支援に関し、院生の回答内容の検証をどのようにして行っているのかが疑問でした。
- ・大学院生による支援デスクの横の教員による支援について。この二つの支援のかかわりなどをお聞きしたかったです。

3. 今後もアカデミック・リンクではセミナーやシンポジウムを企画していきます。そこで、取り上げてほしいテーマや講師があれば、お書きください。

- ・大学が利用する教材をどのように提供してそれがどう成績に影響しているのか？成績を上げるにはどうすれば良いのかなどのテーマに、興味があります。
- ・ALC（図書館）と教員との連携した活動。
- ・次回の著作権のお話も大変興味があります。
- ・利用行動調査の分析結果。
- ・学修支援について。
- ・教育著作権について

(次頁に続く)

- ・デジタルテキスト、学習履歴データ、進捗データの活用、反転授業、アノテーションデータの共有（協調学習）、デジタルコンテンツを使った大学授業
- ・電子情報、著作物の権利処理（教育利用のみならず、一般に公開アクセスすることについて）に関心があります。
- ・活動実績
- ・空間や施設での問題点、改善点などのテーマがあればと思います。
- ・アクティブ・ラーニング
- ・OCWにおける著作権について。
- ・CLRのその後について。

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・見学会とセミナー参加の機会を頂きありがとうございました。
- ・興味深い内容でした。
- ・CLRの取り組みとして組み合わせやケースなどが複雑ではないかと心配します。有償化のビジネスモデルをつくることで促進されると思います。
- ・職場に持ち帰って共有したいお話をたくさん聞くことができよかったです。
- ・参加させていただきありがとうございました。
- ・非常に参考になりました。ありがとうございました。
- ・本日は有意義な内容のセミナーをありがとうございました。
- ・「学習支援デスク」と「独自作成のラーニングコース」の両面展開がおもしろい。デスクは人と人との直接コミュニケーションで深さは最高。しかし、拡がりにはeラーニング。ただし浅い。多数の学生の異なるニーズに応えるために、両面が有効では。
- ・有意義でした。見学会も参考になりました。ありがとうございました。
- ・よく分かりました。勉強になりました。ありがとうございました。
- ・見学会から参加させていただきました。実際にセンターを見せていただくことで、後のセミナーを伺っている時もイメージし易かったです。

5. 次の（１）、（２）について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 学外から参加 19名 b. 学内からの参加 2名 (無回答 2名)
- (2) a. 学生 b. 教員 c. 大学職員(図書館職員を除く) 3名 d. 図書館職員 11名 e. 出版関係
f. その他 5名 (無回答 4名)

6. セミナーを何で知りましたか？

- a. Web(アカデミック・リンク・センター) 8名 b. Web(図書館) 1名 c. Web(千葉大学)
d. 図書館内電子掲示 e. ポスター f. センターからのメール 7名 g. Facebook・Twitter
h. その他(教授、上司、同僚の紹介など) 6名 (無回答1名)

千葉大学 アカデミック・リンク・センターでは、セミナーの開催や関連する情報を提供しています。これらの情報を希望される方は、お名前・ご所属・メールアドレスをご記入ください。（既に登録されている方は引き続きお届けしますので、空欄で結構です）

お名前：()

ご所属：()

電子メールアドレス： 申込時に申請したもの それ以外()

ご協力ありがとうございました。

※8名が新規に継続的な情報提供を希望